

平成29年度
第2回北信越ブロック A級研修会
記録

主催：公益財団法人 日本バスケットボール協会

北信越バスケットボール協会

主管：北信越バスケットボール協会 審判委員会

一般社団法人 福井県バスケットボール協会 審判委員会

期日：平成29年8月25日(金)～8月27日(日)

会場：福井県営体育館

第38回北信越国民体育大会 バスケットボール競技 審判会議

平成29年 8 月25日（金） 17:00～ 福井県営体育館・会議室 2

■会長挨拶

福井県バスケットボール協会・会長 今宮 忠夫 氏

- ・北信越の各県からの多大なる御協力のもと、今大会を本県で開催できることは、この上ない喜びである。
- ・今大会は10月 1 日より行われる、えひめ国体のブロック予選に位置づけられており、1 枠をかけた戦いになるので、激しい試合が予想されると思うが、北信越のバスケット技術の向上ならびに審判の技量向上のために全力を尽くして臨んで頂きたい。
- ・来年は、50年ぶりの福井国体に向けてこの夏には全国教員大会を実施し、鋭意準備を進めているところである。運営にもますます力をいれていけるように精進していくので、ぜひ皆さまの御協力、御支援をお願いしたい。
- ・精一杯の準備を進めてきた本大会において、審判の方々のより一層の御活躍を祈念申し上げてあいさつとさせて頂きたい。



■ブロック審査委員長挨拶

北信越バスケットボール協会・審判審査委員長 荒木 博明 氏
割愛されました。

■ブロック長挨拶

北信越バスケットボール協会・審判委員長 川端 孝博 氏

- ・明日から北信越国体、本国体に向けての熱い戦いがある。県をあげて力を入れている熱い戦いにむけてコート内外の体調管理をしっかりと行ってほしい。今年度より全種別全ゲーム 3 パーソンで行う。各チーム注目をしている。体調や心構え等準備をしっかりとしてほしい。今日を含めて 3 日間よろしくお願ひします。



■大会注意事項及び確認事項

(一社) 福井県バスケットボール協会

審判委員長 仲埜 弘幸 氏

- ・代表者会議での確認事項の伝達
フェイクはなし
危険な行為(肘・足元に入る)について、ピボットフットについてチームで協力してほしい。
TOは練習を積んだ高校生だが、協力して行う。



(一社) 福井県バスケットボール協会・TO委員長 松山 幸市 氏

仲埜審判委員長が代理で説明。

Bコートのみショットクロックがバックボード上に設置してある。

■諸連絡

①総務(梅田)

- ・審判員用飲料を1人1本用意します。階段降りた所に自販機もありますので、御利用ください。
- ・スコアシートのサインは、審判控室にて行います。
- ・IDを配付しましたので、御着用よろしくお願いします。
- ・明日懇親会がありますので、御参加ください。

②財務(高嶋)

- ・宿泊、懇親会費について、支払いは各県まとめて頂けると助かりますので、御協力ください。
- ・明日、審判謝礼金をお渡ししますので、印鑑の御準備をお願いします。

③会場(野尻)

- ・資料の会場図について、第2会議室が審判控室、第3会議室がA級研修会場になります。
- ・体育館フロアは土足厳禁ですが、それ以外は基本土足OKです。
- ・第4、5駐車場は審判員用駐車場になります。各県2部ずつ駐車許可証を配付しましたので、それを御利用ください。
- ・コインランドリーも資料に載っていますので、確認の上御利用ください。

■質疑応答

- ・石川県より、北沢夫妻の紹介
今年の4月から、宮城県より北沢夫妻が石川県に派遣されました。
- ・荒木氏より、講師：渡邊 整氏の紹介

平成29年度 第2回北信越ブロック A級研修会 開講式

平成29年8月25日（金） 17:30～ 福井県営体育館・会議室2

■ブロック審査委員長挨拶

北信越バスケットボール協会・審判審査委員長 荒木 博明 氏

- ・ A級研修会を開催するにあたって、A級の欠席が1人だけという状況をみさせてもらおうと北信越のみなさんの意欲を感じる。
- ・ A級の研修という位置づけではあるが、北信越のバスケットボールの強化・育成つながる判定、ゲームをきちんと成立させることを最優先事項として臨んでいただきたい。そのためには、コートに立つ際に自ら課題をもって主体的に取り組むことを心がけていただきたい。
- ・ 北信越にもたくさんのS級審判員の方々がおられる。中江さん、北沢さん、尾形さん。明日は、講師としてもお世話になることになるが、御協力をお願いしたい。



■ブロック長挨拶

北信越バスケットボール協会・審判委員長 川端 孝博 氏

割愛されました。

■講師挨拶

（公財）日本バスケットボール協会 審判委員会 渡邊 整 氏

- ・ 先週関東ブロックでもミニ国体が行われ、本戦に出場する1チームが決定した。国体のブロック予選はオンザコートの選手にとって身につけてきた力を十分に発揮してもらうことはもちろんのこと、各県を挙げての事業であり、多数のお金と時間がかけられた上に成り立っている大会であることを自覚し、責任の重いゲームを担当するというを理解して臨んでもらいたい。
- ・ コートの中を一番大切にして、商品価値を下げないような判定に努め、自分の課題をクリアーできるような有意義な研修にしていきたい。全員の審判を見ることができないのは非常に残念であるが、精一杯務めさせていただきたい。



【講義】 平成29年8月25日（金） 17:45～18:30 福井県営体育館・会議室2

講師 渡邊 整 氏

テーマ「プレイコーリングおよび3POメカニクス」

7月14日から新しいガイドラインが示されました。これは、ルールブックから抜粋したものであり、ルールを具体的に書いたものです。ガイドラインを示した目的とは、①ゲームをクリーンに進めていくこと、②上級審判員は、有料ゲームを扱う事があり、その商品価値を下げないこと。そして、ガイドラインに則って、メッセージを笛やジェスチャーで表現していくことで、目的達成につながるということです。（以下、ガイドラインの紹介・説明→写真記録参照）

○プロテクト・シューター（新しくガイドラインに入ってきたもの）

オフェンスの権利を守るために、我々がやっていかなくてはいけないものであり、プレイヤーが怪我をして、そのせいでシーズンを棒に振ることがないようにという意味も含まれている。

○UF 4つのクライテリア（基準）

（3）ラストプレイヤーの状況で、後ろからもしくは横からのファウル

しっかり説明ができることが重要

○プレイヤー・コーチのテクニカルファウル（新しくガイドラインに入ってきたもの）

我々は、テクニカルファウルをとれる権利を持っているが、プレイヤーやコーチとコミュニケーションをとることで、それを防ぐことにつながる。それには、プレゼンテーションだったり、その人の雰囲気だったり、人間性だったりに関係してくることである。クリーンなゲームにするためにはテクニカルファウルは必要であるが、乱発しないこと。乱発の状況が出てくるということは、審判側にも問題があるということ。

○フェイク

ゲームの商品価値に関して、相手プレイヤーや審判をだますプレイは相応しくないということ。アクション、リアクションの関係で、アクションをしっかり捉えて判定につなげること。また、なぜ倒れたのかというプレイヤーの意図を判断しなければならない。そして、フェイクと判定した場合は、審判員と協力してプレイヤー、コーチにも速やかに伝える必要がある。

○トラヴェリング

「明らかなもの」を取り上げる。①軸足の踏み変え、②軸足のズレ、③突き出しの遅れ。ランニングキャッチから「明らかに」遅れてドリブルをついた場合以外は取り上げないようになっている。

○ファイティング

コーチやプレイヤーの喧嘩をインプットすることも必要なのかなと思っている。

<3PO Basic>

重要な言葉

○プライマリー…エリアとアングル

○レフェリー・ディフェンス…まずはディフェンスの状況を確認してください。

○クローズド・アングル…この場合は取り上げないことが重要

- ・ボールサイド2が基本になります。アクションエリアも含めて、ボールサイド2をつくる。
- ・サイドチェンジは、必要な回数を行ってください。1回サイドチェンジしたから終わりということではなく、必要であれば何回でも行ってください。
- ・自分のアングルがしっかり取れていれば、相手のエリアでもコールしてOK。プレイヤーにとっては審判のエリアは関係ないので、見えたものはコールしてOK。

- ・ローテーションについて、ミラー・ザ・ボールの動きに則って、リードがクローズダウンしてローテーションする。ノーワーキングエリアでの判定もOK。そこに居続けなければよい。ボールがミッドラインを超えていればローテーションを行ってください。ローテーション時、センターはすぐにトレイルになるのではなく、捉えているプレイを手放さないこと。Wセンターは○。Wトレイルは×。
- ・リードの立ち位置は、45度、リングの先端が見えるところがよいが、その位置に固執しない。
- ・クロスコールについて、自分のアングルが取れていないものは取り上げないでおきましょう。ただし、アングルがしっかり取れているものは取り上げて構わない。

< 3PO補助資料：Bリーグファイナルの映像鑑賞 >

最後に、2POと3POはメカが全く違います。4万人近くの審判員がいる中で、S級は100人です。A級の方々に力をつけてほしい。振り返りが大切なので、良かった点、悪かった点を1つ1つ挙げて、それらを克服していきましょう。まずは、目の前の現象を1つ1つしっかり捉えていくことが、ゲームコントロールにつながっていきます。そのようなことを行って、ライセンスを上げて行ってください。

期 日	平成29年8月26日(土) Aコート第1試合			会 場	福井県営体育館
対 戦	(成年男子)	福 井	—	新 潟	
R	山 内 正 隆 (長野県)	U 1	吉 田 康 人 (石川県)	U 2	吉 田 知 実 (長野県)
講 師	渡 邊 整 氏		記 録	本 田 淳一郎	



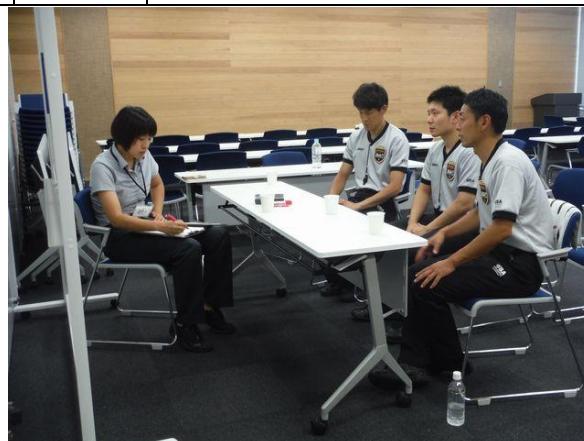
期 日	平成29年8月26日(土) Bコート第2試合			会 場	福井県営体育館
対 戦	(少年男子)	石 川	—	福 井	
R	鈴 木 宏 (新潟県)	U 1	山 本 達 也 (富山県)	U 2	石 丸 雅 裕 (新潟県)
講 師	北 沢 あや子 氏		記 録	山 本 一 栄	



期 日	平成29年8月26日(土) Aコート第3試合			会 場	福井県営体育館
対 戦	(成年男子) 石 川 一 福 井				
R	山 本 邦 弘 (長野県)	U 1	竹 田 雄 介 (富山県)	U 2	高 野 直 人 (新潟県)
講 師	渡 邊 整 氏		記 録	長谷川 雅 之	



期 日	平成29年8月26日(土) Cコート第3試合			会 場	福井県営体育館
対 戦	(少年女子) 富 山 一 石 川				
R	中 川 北 斗 (長野県)	U 1	浮 池 亮 太 (福井県)	U 2	本 多 淳一郎 (福井県)
講 師	渡 邊 整 氏		記 録	栗 原 敏 彰	



期 日	平成29年8月26日(土) Bコート第4試合			会 場	福井県営体育館
対 戦	(少年男子) 富 山 — 石 川				
R	関 和 明 (長野県)	U 1	早 川 貴 章 (新潟県)	U 2	川 崎 裕 晃 (福井県)
講 師	渡 邊 整 氏		記 録	下 東 綾	



期 日	平成29年8月26日(土) Aコート第5試合			会 場	福井県営体育館
対 戦	富 山 — 石 川				
R	丸 山 大 (新潟県)	U 1	栗 原 敏 彰 (福井県)	U 2	長谷川 雅 之 (福井県)
講 師	渡 邊 整 氏		記 録	辻 崎 紀 晶	



期 日	平成29年8月27日(日) Bコート第1試合			会 場	福井県営体育館
対 戦	富 山 — 福 井				
R	矢 田 伸 一 (石川県)	U 1	早 川 貴 章 (新潟県)	U 2	鈴 木 誠 (長野県)
講 師	渡 邊 整 氏		記 録	日 下 弘 賢	



期 日	平成29年8月27日(日) Cコート第1試合			会 場	福井県営体育館
対 戦	(少年女子) 石 川 — 新 潟				
R	尾 形 美 樹 (長野県)	U 1	梅 田 香 (福井県)	U 2	山 本 一 栄 (福井県)
講 師	北 沢 あや子 氏		記 録	大久保 貴 久	



期 日	平成29年8月27日(日) Bコート第3試合			会 場	福井県営体育館
対 戦	(少年男子) 福 井 ー 長 野				
R	白 川 直 弘 (石川県)	U 1	山 本 達 也 (富山県)	U 2	箱 崎 敬 知 (石川県)
講 師	渡 邊 整 氏		記 録	山 本 一 栄	



期 日	平成29年8月27日(日) Aコート第4試合			会 場	福井県営体育館
対 戦	(成年男子) 福 井 ー 長 野				
R	竹 本 禎 憲 (石川県)	U 1	濱 住 知 明 (富山県)	U 2	水 上 浩 (石川県)
講 師	尾 形 美 樹 氏		記 録	番 場 亮 一	



期 日	平成29年8月27日(日) Cコート第4試合			会 場	福井県営体育館
対 戦	(少年女子)	長 野	—	石 川	
R	仲 埜 弘 幸 (福井県)	U 1	河 辺 真由美 (富山県)	U 2	大久保 貴 久 (福井県)
講 師	中 江 洋 美 氏		記 録	玉 田 真 也	



平成29年度 第2回北信越ブロック A級研修会 閉講式

平成29年8月27日（日） 14:30～ 福井県営体育館・会議室2

■講師講評 渡邊 整 氏

- ・JBAの派遣講師として、本来ならば全員のレフリーについて指導すべきであると思うが、一人で講師をすることで物理的に無理な部分があった。まずはお詫びしたい。
- ・メカについては、3POのローテーションにどうしても意識がいきがちで、判定につながらないことが予想されたが、非常にスムーズなクルーが多く良かった。ボールサイド2を作る中で、もっと速く行くべき場面や、逆に行かなくてよかった場面があったと思うが、すべてやってみたら反省できるものであると感じる。今後も継続してほしい。
- ・センターからセンターであったり、リードからニュートレイルになる際のスピードが若干遅い場面が多く見られた。いち早くセットアップポジションに入り、どのプレイを捉えなくてはならないのか、どのような判定をするためにどう動くのかを判断する時間を確保してほしい。
- ・3POの良さは、プレイを長く捉えることができること、そして何よりセンターポジションが機能することである。センターとしての役割を理解し、大いに責任を果たすためにもプライマリーでのアングル取りに積極的にトライしてもらいたい。
- ・判定のガイドラインについては、誰とでもどこでも同じように審判の判定をしていくために、非常に大切なことである。各県に帰られた後でも、全員で共有する機会をもってほしい。
- ・プレゼンテーションについては、もっと見せ方の工夫が必要であると感じた。見られる存在として、強さであったり、カッコよさであったり、信頼感を得られるようなプレゼンに努めてもらいたい。
- ・A級の数が増えており、みなさんが大きな舞台で活躍する場面も増えてきたと思うが、ここにいる仲間でもあり、最大のライバルでもある審判に負けることがないよう自己研鑽に励んでほしい。
- ・福井のスタッフの方には非常に細かい点までサポートしていただき、お世話になった。本国体に向けてさらに準備を進めて、素晴らしい国体を迎えてほしい。また、お手伝いできることがあればさせていただきたい。



■ブロック審査委員長挨拶

北信越バスケットボール協会・審判審査委員長 荒木 博明 氏

- ・金曜日の講義から3日間、大変お疲れ様でした。非常に丁寧で、優しい人柄の渡邊氏に3日間講師を



していただいたことは非常に光栄であり、有りがたいことである。金曜日の講義にもあったが、「判定の根拠を示す」ことが「ゆるぎない判定」につながり、そして「ゲームコントロール」につながっていくという一連の関係性を強く意識して、今後も実践を積み重ねていってほしい。そして、常に目標をもって審判活動に従事され、ここにいるライバル達としてのぎを削る中で、大いに成長していってほしいと願っている。